

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 秋山茂則
 幹事 和田正敏
 会報委員長 佐野寛

自分を越えた眼を

No. 38

LOOK BEYOND YOURSELF

1991~92年度 RI会長 ラジェンドラ・K・サパー

第476回例会 平成4年4月14日(火) 晴

◇ “奉仕の理想”

◇ 出席報告

会員 66(63)名 出席 43名
 出席率 68.25%
 前回 4月7日(修正出席率)96.83%

◇ ビジター紹介 6名

◇ お誕生日祝福

市原夫人(3/19)、小林君(4/13)、江崎君(4/16)

◇ ニコボックス

秋山 茂則君 今日の笑顔。

安藤 銀之助君、西尾 正巳君 中部経済会東欧視察団に参加しますので、14日・21日と欠席させていただきます。

江崎 民夫君、小林 明君 誕生日祝い。

市原 数男君 夫人誕生日祝い。

小坂井盛雄君、宮尾 紘司君、中山 信夫君、杉山 貞男君、和田 正敏君 結婚記念日祝い。

◇ 和田幹事報告

1. 本日例会終了後、10周年記念実行委員会を開催致しますので、実行委員の方は2F 扇の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、理事役員会を開催致しますので、理事役員の方はお残り下さい。
3. ロータリーの友4月号が来て居りますので、お帰りにお持ち下さい。

◇ 秋山会長挨拶

国際感覚

昨年ペルーで3人の日本人農業技術者が左翼ゲリラに襲われて殺されました。三人は国際協力事業団から農業の技術指導のため日本から派遣された人たちです。農業技術センターの十数人の中から日本人だけを選んで公開処刑しました。殺害現場に「日本帝国主義に死を」のスローガンが書き残されていました。その外に東京銀行のリマ支店長が襲われたり日本軍の販売代理店が襲われたりしています。

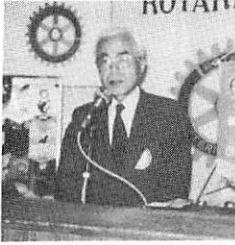
左翼ゲリラ(センデロルミノーズ(輝く道)はマルクス主義や毛沢東主義を信奉するインデオ主体の組織です。植民地時代からインデオは迫害されており、常に被支配者の立場で飢餓や貧困に耐えてきた。そのために支配者に対する怨念に根強いものがあり、抵抗には熾烈なものがある。日本の側では単なる企業活動だったり、民生向上の支援活動であってもゲリラ側はそうは受け取らない。利潤や支援活動による増産もみな支配者に吸い上げられてしまうというわけ。だからゲリラの理論からすれば支配者を利する日本の行動は圧迫された民衆への敵対行動になり、けしからんとなるわけです。ペルーは日本人の移民が多く一般的日本人から見れば親近感のある国です。しかも日系のフジモリさんが大統領なので何か兄弟国のような錯覚に陥っている人も多いと思います。こんな同族意識感覚から同じ日本人だから自分達と同じ考えで行動するように錯覚する。そこで前述のような事件に巻き込まれるわけです。ペルーばかりでなく世界各地で誘拐、殺人が日本人相手になされておりますが、日本人の国際感覚という視点の甘さがあると指摘されております。多くの情報の中の危機を示すサインの読み取りが鈍いとのこと。日本人的発想というか、自分ならそうするだろうと勝手な推測で相手を見てしまうのだろうか。国際化社会の中で学ぶことは多い。

◇ 講演

“たかが言葉されど言葉”

会員 今枝 秀夫君

このところ経済摩擦から日米関係が、とみに緊張しておりまして、日米両国民とも非常に心配しておるわけでございます。その緊張に輪をかけたのが、2月3日の予算委員会で、



元通産大臣武藤嘉文氏の質問に対する宮沢総理の所謂「勤労者の倫理感欠如」答弁でございました。その内容を一部紹介申し上げますと、『確かに今、アメリカに欠けているの

は、ここ十何年ここに至ったゆえんを見ると物を作るというか、価値を生むことについて解釈が非常にルーズになったというかマネーマーケットでも価値を生むに違いないだろうとか、額に汗して、一つの物を創造して行く(勤労の倫理感)ではないかと思っていた。或る意味で日本のバブルにもその要素があった。ブッシュ大統領が教育と語っているのは、そのためではないか』と発言したのでありますが、ゼネラルモーターズや大企業の人員整理が続発している最中の新年早々とビッグ3トップを引き連れてのブッシュ大統領の訪日で、アメリカ国民の大多数の関心が、日本を向いておりましたので大変な反発を招いてしまったことは、皆様御承知のとおりであります。「アメリカの勤労倫理感が欠如している」という宮沢発言のあった次の週の11日にミシガン州三菱系自動車販売店のショーウィンドーが銃弾で穴が開き、トヨタ系販売店も同様な目に遇ったともいわれ、不況下のアメリカでは、反日感情が高まり易くなっているため、現地生産をしておりますホンダ、東芝、松下、トヨタなどの日本を代表する企業では、不安と緊張がひろがりその対応に追われたとのことでございます。

こうしたアメリカ批判は、今回が始めてでなく2年前には時の梶山法務大臣が、アメリカの人種問題にふれまして、「悪貨は良貨を駆逐する」と発言しておりますし、その又2年前にも、当時の渡辺政調会長が「アメリカの黒人は借金が払えなくなっても、アッケラカンとしている」と発言しております。更にその2年前に当時の中曽根総理が「アメリカには、メキシカンやプエルトリコ、黒人などがいて日本より知的レベルが低い」とおしゃべりし、宮沢発言より半月程前にも、桜内衆議院議長が、「アメリカの労働の質は劣悪で労働者の3割は文字が読めない」と地方講演会で述べたと伝えられ、そのたびにアメリカ側の反発を招いてきたのであります。

では何故こうしたことが続くのか、精神分析を試みた。和光大学の岸田教授によりますと、これら一連の発言が、アメリカに対して協調的な政策をとらされた後に起っていることに気づきまして抑圧された心理的要素が、無意識のうちに発現されたと解釈をしており

ます。

自民党政府は、戦後一貫して、対米屈従の政策で参りました。従ってその中心にいる者は、とくに対米協調をした後抑えられた内的自己がうっ積するものと考えられ、又、いつもアメリカの少数派を槍玉にあげるのも、相手を正面から攻撃出来ない時に、相手の中の弱い層を選んで攻撃するよくあるやり口とも云われております。さて皆様はどうお考えになりますでしょうか。

いづれにしましても、国を代表する立場の人が、日米の友好関係を損なうような発言をすべきではないことは明らかで、今後このような紛争の種が起きないように祈るのみであります。只無意識の発言で、正論と思われるものが、相手を傷つけるとなると中々厄介なことであり、ひょっとすると、我々も日常そうしたことを知らないうちに行なっているかも知れませんし、本日の話の中から若し出て来たときは、御容赦頂きたいと存じます。

この2年程前になりますが、秋山会長が会報委員長をしておいでになり、「なにかひと言を会報に載せたい」と要請を受けましたので、時あたかもバブルはなやかな時でもあり「過ぎたるは及ばざるが如し」という。格言を掲載して頂きました。

行き過ぎの心配が大きいのが、地球上の人口問題でございます。最近の新聞誌上でも、1991年、54億人から2020年には82億人になるとの推計が発表されております。FAO国連の食糧農業機関では、地球環境の破壊が進み、今後60年で4万種類の植物が絶滅し、世界の食糧危機が到来すると研究報告をいたしました。

理由としまして、「人口の増加に伴う生態学的変化が急激に起こるために、植物は生物学的にこれに対応する時間がなく、穀物など多くの植物の種が、急変する天候や、土壤悪化などで、病気に弱くなり、絶滅への道を歩く」ということでした。

この人口爆発に対処するには、総量規制が最も期待される方法であります。具体的には、国連を通じて、各国の知恵者が考えてくれるとは思いますが、一つには、この問題が焦眉の急であることの教育、啓発であることは、云うまでもありません。

(紙面の都合上、つづきは次回掲載させていただきます)

◇次回例会(4月21日)

講演 “今年のドラゴンズ観”

タレント 青空ほしお氏(紹介 上野君)

◇次々回例会(5月12日)

クラブフォーラム(地区協議会報告)